



業況DIは、引き続き回復に遅れ。先行きも不透明感から足踏みが続く見込み

ポイント

▶ 10月の全産業合計の業況DIは、▲24.5と、前月から▲0.3ポイントのほぼ横ばい。中小企業においては、仕入価格やエネルギーコストの上昇に伴う収益圧迫が続く中、消費税率引き上げ以降、受注・売上の回復が遅れており、景況感に弱さがみられる。とりわけ、小売業からは、台風の影響に加え、家計負担の増大に伴う消費者の買い控えや低価格志向の強まりを指摘する声が聞かれるなど、個人消費は力強さを欠く。

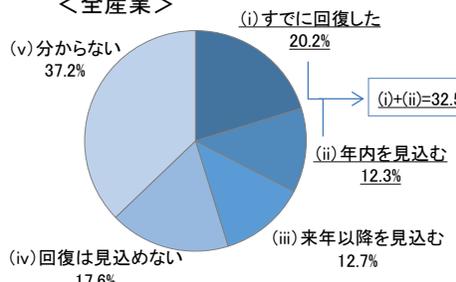
▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲23.5(今月比+1.0ポイント)と、ほぼ横ばいを見込む。冬の賞与増などを背景に、年末に向けて景気は緩やかに持ち直すとの見方があるものの、足元の受注・売上の伸びの弱さを懸念する声も聞かれる。また、当初見込んでいた生産や消費の回復時期が後ずれする中、コスト増に伴う収益圧迫や、家計負担の増大による消費者の生活防衛意識の高まりなど、先行きに対して確信が持てない中小企業において、慎重な見方が広がりつつある。

消費税率引き上げの影響からの回復時期

- ▶ 消費税率引き上げの影響からの回復時期は、「すでに回復した」及び「年内を見込む」企業(全産業)の合計が32.5%(i)+(ii))、「回復は見込めない」は17.6%
- ▶ 業種別では、小売、サービス業は、他業種に比べ「回復は見込めない」との回答が多い

◆消費税率引き上げの影響からの回復時期

<全産業>



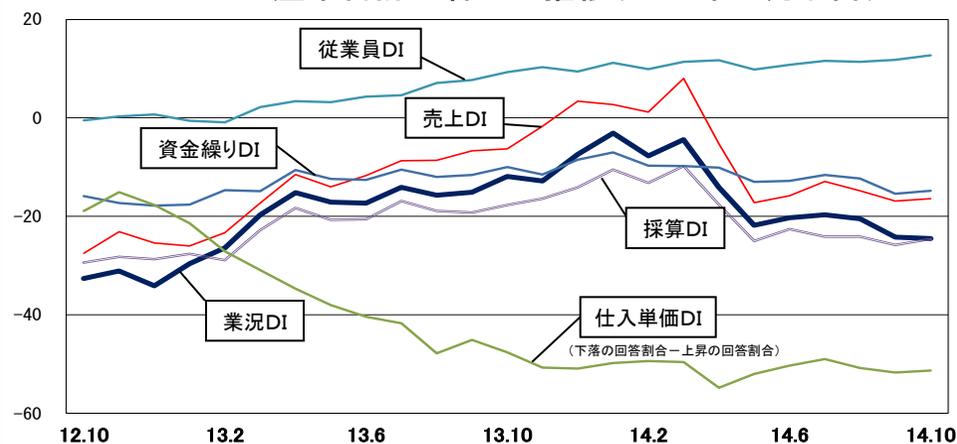
<業種別>

業種	(i)すでに回復した	(ii)年内を見込む	(iii)来年以降を見込む	(iv)回復は見込めない	(v)分からない
建設	23.8%	7.6%	13.3%	11.4%	43.8%
製造	21.9%	14.1%	11.8%	11.1%	41.2%
卸売	21.7%	12.1%	16.6%	17.8%	31.8%
小売	13.9%	15.5%	16.6%	25.7%	28.4%
サービス	21.5%	10.9%	7.4%	20.3%	39.9%

[中小企業の声]

- ▶ 消費税率引き上げの影響は、9月には収まりを見せている (札幌 情報機器等卸売業)
- ▶ 個人住宅は、昨年は駆け込み需要があった一方、今年は例年の3分の2程度の受注となっており、来年以降の見通しが立たない状況 (静岡 一般工事業)
- ▶ 消費税率の影響は年明けに回復を予想。それよりも、円安による物価上昇の影響が大きい (丸亀 衣料品販売)
- ▶ 個人消費は、底堅さはあるが消費税率引き上げの影響からは脱していない (大分 百貨店)

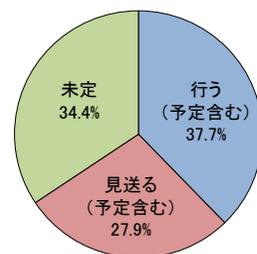
LOBO全産業合計の各DIの推移(2012年10月以降)



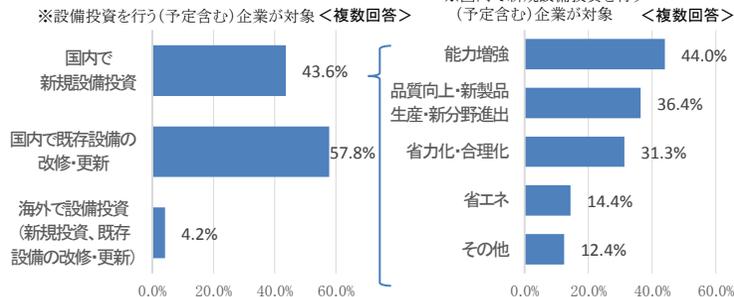
2014年度の設備投資

- ▶ 設備投資を「行う(予定含む)」企業(全産業)は37.7%。「見送る(予定含む)」とする企業は27.9%、「未定」は34.4%
- ▶ 設備投資の内容は、「国内で既存設備の改修・更新」(全産業)が57.8%、「国内で新規設備投資」が43.6%。「国内で新規設備投資」の目的は、「能力増強」が44.0%と最も高く、「品質向上・新製品生産・新分野進出」が36.4%で続く

◆設備投資の実施の有無



◆設備投資の内容・目的



[中小企業の声]

- ▶ 人手不足に対応するため、ロボット化の新規投資を計画 (横浜 鶏卵・同加工品製造卸売業)
- ▶ 新規受注が好調。短納期や高精度・高品質の要求に対応するため、ものづくり補助金等の支援制度を活用し、高機能測定器・加工機の導入を計画 (浜松 省力化機械等製造業)
- ▶ 売上は前年割れが続いており、積極的な設備投資は困難 (蒲郡 総合スーパー)